

## E-26 てんペう画の防黴について（オノ報）

微生物により損傷を受けたてんペう画の防黴について

日本女大家政 ○青島郁子

目的 てんペう画は木材などの上にカルシウム塩を膠水にとかしてぬりこめた支持体に、卵黄の乳化力を活用して顔料をとき、彩色してやく画法である。演者は、てんペう画が微生物による災害のいちじるしさを憂慮し、文化財保護の立場からてんペう画の防黴を試みた。

方法 まず微生物により損傷を受けたてんペう画の表面を、彩色部位別に滅菌したペーパータオルで拭いとり、ポテトデキストロース平板培地に貼布。25°Cで数日間培養して、微生物を純粋分離した。次に、これらの分離菌に対して数種の防黴剤の抵抗試験を行ない、その結果に基づいて、てんペう画の薬剤処理を行なった。後、25°Cで3週間保持、薬剤処理の効果を確かめた。

結果 てんペう画Aからは10菌株、Bからは18菌株、Cからは14菌株、そしてDからは18菌株を分離した。AとBには4-クロルフェニール-ヨードプロパルギルマールを塗布、またCとDには、2-(4-チアゾール)ベンツイミダゾールを塗布した。その結果、殆ど微生物の再発生を認めなかつた。